

加藤ゼミ 2006 春合宿課題 「有名人無名人の二十歳の頃」

社会保険労務士 山口陽一郎氏(石原健三事務所)を訪ねて
～ゼネラリストではなくスペシャリストに～

○インタビュー相手を社会保険労務士(社労士)にした理由

メンバーの一人が社労士に大変興味があり、又、他のメンバーは社労士とはどのような仕事をしているのか全く知らなかったのが今回のこの課題が社労士を知るいい機会だと思いインタビュー相手を社労士に決定しました。

しかし社労士は大変お忙しい職業のため、アポを取るのに大変苦労しました。何十人もの社労士の先生にお電話を差し上げ交渉した結果、私たち日本大学経済学部卒業生というご縁もあって、社会保険労務士石原健三先生のもとを訪問させていただきました。

○社会保険労務士(社労士)とは？

社労士とは、労働基準法や厚生年金保険法・健康保険法などの社会保険関係の法令を熟知し、企業や企業で働く人たちのためにさまざまな書類の作成や申請を行う事を主な仕事としています。また、企業や企業で働く人たちが抱える色々な問題に対してコンサルティングを行う事によって企業の発展を助け、そこで働く人たちの職場環境の向上を目指す人事・総務部門におけるスペシャリストでもあります。

○インタビューの内容

私たちのインタビューには石原先生ならびに石原先生の仕事仲間でもある山口陽一郎先生が答えてくださいました。お二人とも質問に対して一つ一つ丁寧かつ熱心に答えてくださり、私たちはより一層社労士という職業に興味を持つことができました。

～社労士という職業との出会い(20 歳)～

山口先生が二十歳の頃は大学2年生の時でした。当時、自分の将来について模索中だった山口先生。しかし労使関係論の講義のなかで教授が社労士の事を話題にしていたのがきっかけでこの仕事(社労士)に大変興味を持ったそうです。しかし、当時はまさか将来自分が社労士になるとは思いもしなかったとおっしゃっていました。

～社労士に真剣に興味を持ち始める(20－22 歳)～

教授の講義での話題で興味を持ち始めた社労士という職業。仕事内容を勉強するにつれ『本気で社労士になりたい！！』と思い始め、数ヵ月後本格的に社労士についての勉強を始めたそうです。

～企業に就職(23 歳)～

大学卒業後すぐに社労士になる事も可能だったが、経験、人脈の不足や経済的問題のため、ある上場企業(商社)の人事部門に就職。しかし社労士になる夢は決してあきらめはしなかったそうです。

17 年間勤務・・・・・・・・

～ついに夢実現！！(40 歳)～

経験、人脈、経済的な地盤を固め、ついについに独立。

山口社会保険労務事務所開業！！

山口先生は独立、開業後まもなく一人の先生と巡り会いました。そのご縁は現在も続いており、その巡り会った先生こそが彼の良き師である石原健三先生なのだそうです。

○ 社労士になるためには

大学で労務管理・労働法・経営学・中小企業論・会社法、そして心理学を学んでおいた方が良さそうです。そして、どんな小さな事でもいいから何か1つ誰にも負けない事を見つけてください。また勉強でもアルバイトでも一生懸命かつ楽しんで取り組んでください。楽しくなくちゃ意味が無いからね！とおっしゃってくださいました。

○ インタビューを終えて(編集後記)

今回「有名人無名人の二十歳の頃」を調べる。と言う事で社会保険労務士石原健三先生ならびに山口陽一郎先生にインタビューをさせていただきました。現在実際にご活躍されている社労士の方にさまざまなお話を聞かせていただけるといっても貴重な経験をさせていただいてメンバー一同感謝の気持ちでいっぱいです。また、インタビューのなかで社労士についてもものすごく熱心に語られていたのがとても印象的で格好良かったです。

今回のインタビューをきっかけに、日本大学の卒業生からなる社労士のパーティに呼んでいただいたり、現在も交流を続けさせていただいています。

最後に石原健三事務所の皆様、お忙しいなか私たちの訪問そしてインタビューにお答えいただきありがとうございました。今回のインタビューをこれからの大学生活、ゼミ活動に生かしていくと同時に、社労士についてより一層深く勉強していきたいと思います。

加藤恭子ゼミ ゼミ生 赤木 寺田
鯉谷 横溝



平成18年度会員交流会

社会保険労務士会東京桜門会

